

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000210	事業の開始年月日	平成20年4月1日	
		指定年月日	平成20年4月1日	
法人名	社会福祉法人豊笑会			
事業所名	グループホームライフハウス平戸			
所在地	(244-0803)			
	神奈川県横浜市戸塚区平戸町1156-2			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成21年11月25日	評価結果 市町村受理日	平成22年2月5日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の今までの生活習慣を大事にし、日常生活の中で無理なく出来ることを行なうことができ、「穏やかで微笑み豊かな介護」を目指し、職員はご利用者一人ひとりのペースに合わせて必要な支援をしています。季節ごとの行事やボランティアによる催し、毎日のレクリエーションを通じて単調な生活にならないようにしています。納涼祭などの大きな行事の際には、法人内の事業所同士で協力し合い、盛大に行なっています。また天気の良い時は出来る限り、屋外に出るようにし、散歩や買物を楽しんでいます。歌がお好きなご利用者が多いため、いつも歌声が響いている明るいホームです。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年12月9日	評価機関 評価決定日	平成21年12月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

◇理念に「家庭や地域の方々との関係を大切に開放的なグループホーム作り」を掲げ、町内会での情報を基に地域のイベントに参加するなど、地域との連携に努めている。
 ◇居室、共同空間は掃除が行き届き清潔である。リビングとトイレに設置された空気清浄機や床暖房設備は、室内の乾燥を防ぎ居心地の良い住環境をもたらしている。
 ◇法人内の事業所同士で企画した納涼祭などの行事を、地域にもPRして住民との交流の場に行きたいと努力している。
 ◇年齢や介護度の高い利用者が多いが、散歩や買物での外出を促し日常的に地域との交流に努めている。また、趣味やレクリエーションで楽しみの時間を作ると共に、排泄への自立支援を積極的に支援している。
 ◇隣接の他法人の事業所と日常的に交流し、年1回防災訓練を共同で行っている。また、年に数回、福祉専門学校生徒や地元中学生の福祉体験学習を受け入れている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

ライフハウス平戸

事業所名	ライフハウス平戸
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族や地域の方々との関係を大切に開放的なグループホーム作り」を理念の一つに挙げ、職員の目に付く場所に掲示し、会議等を通じて周知している。	・事業所の理念を、職員や第三者の目に入りやすい場所に掲示し、職員には理念の具現化に向けてミーティングやユニット会議で話しあっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は毎日のように散歩や買物に外出し、近隣の人とのふれあいがもてるようにしている。また事業所で行なう納涼祭等の行事の案内をしたりしている。	・平成20年度に加入した町内会からの情報を得て、地元の行事にできる範囲で参加している。 ・地元中学の福祉実習生、音楽演奏ボランティアの受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の福祉体験学習を毎年受け入れている。また今年度より区内にある介護福祉士専門学校での学生の実習受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動状況を報告し、各委員より意見をもらっている。改善できる内容は、職員会議等で検討している。	・地区の代表や家族代表、支援センターの職員が出席して、4か月ごとに開催している。 ・会議で介護福祉士の実習生やボランティア受け入れの要望があり実践している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	戸塚区グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしている。また地域包括支援センターの担当者には毎月訪問していただき、何かあれば相談している。	・市の担当者とは、介護認定更新の折、地域包括支援センターの担当者とは毎月の訪問時に話し合っており、相談したいとき、気軽に連絡を取り合える関係ができている。	

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、ユニットリーダーが中心となり、身体拘束の対象となるような行為がないように指導している。また身体拘束に結びつくような対応が無いようにユニット会議で話し合っている。	・居室、ベランダは施錠していない。玄関ドアには鈴をつけて利用者の動きをキャッチし、その場に応じた対応をして、昼間は鍵をかけないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がお互い気を付け、虐待に当たる行為がないように事業所全体で注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を活用していた利用者がいたが現在はいない。必要があれば家族等の相談に乗っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき細かい説明を心がけている。また改定時にも理解して頂けるように丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの要望等は、出来る限り意見が反映されるようにその都度、職員間で検討するようにしている。	・家族会はないが、面会時に意見、要望を聞いている ・外出の機会がもっと欲しいという要望があり、日常の買物、初詣、駅伝応援、花見、外食などの取り組みに反映している。	

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は各事業所の管理者を招集した会議や法人内グループホーム連絡会を開催し意見や提案を聞いている。また管理者はユニット会議の中で職員の意見を聞く機会を設けている。	・管理者と職員は、ミーティング以外でも、事務室と兼用の休憩室で、仕事の悩み、意見が話せる関係ができています。 ・行事は、職員の意見を主体に開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部職員が定期的に事業所を訪問し、職員個々の就業状況の把握に努めており、職場環境の改善、整備をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内事業所の新任職員を対象にオリエンテーション、新人研修を行なっている。外部に研修への参加は少ないが、管理者、ユニットリーダーが中心となり、現場で指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・横浜市グループホーム連絡会や戸塚区グループホーム連絡会にて勉強会、情報交換をしている。 ・隣接するグループホームとは、防災訓練、行事などで日常的に情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の見学時や自宅訪問時に本人の話を良く聞き、実際の活動中の様子を見学していただいたり、見学が難しい利用者にはパンフレット等で事業所の説明をしている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談、見学、自宅訪問等、段階を踏んで話を聞く機会を設けている。必要に応じてサービス提供者からも話を聞いたり、情報収集を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで出来る事、出来ない事を説明し、本人と家族にとって一番良いと思われる支援を共に考え、アドバイスするように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・庭で野菜の栽培や園芸の作業や調理を利用者と共に行なっている。肥料のやり方、栽培方法や調理方法を経験のある利用者から教えて頂くことがある。 ・掃除は、各場所の担当を決め利用者に手伝って頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・定期的な面会をお願いし、本人との関係を持っていただいている。 ・行事等の参加や通院の同行、外出、外泊で協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の出身地や生き立ちの思い出を大切にし、本人との会話の時間を大切にしている。また家族には知人の面会や外出をお願いしている。	・利用者の友人や知人の来訪があり、家族には、外泊や墓参りを働きかけている。 ・家族や知人との、電話や手紙での連絡を支援している。	

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間人関係を把握し、食堂の席や作業グループを決めたりしている。自立度の高い利用者が他利用者のお世話をしたりすることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後、自宅へ戻られた利用者は少ないが、電話で連絡を取ったりしている。 ・長期入院のため退所した利用者の病院に面会したりして状況の確認をし、再入所の可能性があれば、家族と相談している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当者が担当の利用者と信頼関係を築き、日々の会話や支援を通して、利用者一人ひとりの希望や意向を把握するように努めている。本人の確認が困難な場合は、家族の意見を聞き検討している。	・居室担当者だけでなく、全職員が利用者の意向を把握、共有するよう努めている。 ・生活歴や、日常の会話から、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や在宅時の担当ケアマネジャーから情報を収集し、アセスメントシートに記載し本人の状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活の中で職員が気付いた事は各帳票類に記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また毎日の申し送りや毎月の会議の中で、利用者一人ひとりの状態を把握できるように話し合っている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> 入居前に本人が趣味で行なっていたことや生活習慣を本人、家族から聞き取り、介護計画に反映している。 計画の見直しが必要な場合は、毎月のユニット会議で利用者の課題を検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護計画は、通常の3か月ごとの見直すほか、状況の変化に応じ、家族や医師と連携して、現状に即した計画に見直している。 利用者の現状と課題について、ユニット会議で常時話し合っている。 	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況報告書に日中、夜間の状態を分け記載をしている。利用者の様子、職員の対応状況を記録し、全職員が把握できるようなかたちになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者の状況に応じて、法人内の事業所間で検討が必要な事があれば総合的に支援できる体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にウクレレ、ハーモニカ、ハンドマッサージ等のボランティアに来てもらったり、避難訓練等消防署と協力して支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、利用者の希望により、入居前からのかかりつけ医に受診している利用者が半数位いる。また通院に負担がある利用者においては2週間に1回の訪問診療や月1回の往診を受け、主治医と連携をとっている。	<ul style="list-style-type: none"> 提携している医療機関とは、24時間連絡可能な体制ができています。 歯科とは、必要に応じて訪問診療を受けている。 かかりつけ医への通院には家族が付き添っているが、職員が対応することもある。 	

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、半数の利用者は2週間に1回、訪問診療を受けており、看護師と日常面での健康管理について相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療相談員との定期的な連絡や病院での面会の際に医師や看護師等から本人の状態を確認し、家族と共に退院に向けた話し合いの場を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や利用者の意向を踏まえ、重度化した場合の対応について職員間での話し合い、方向性を考えている。重度化し対応困難な場合は、法人内の他サービスで支援が可能であるか、随時検討できる体制を整えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合、医療行為を伴うケアができないことを入居時に家族に説明して了解を得ている。 ・終末期、事業所がどのように関わっていくかを課題として話し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が重度化した場合の対応について、職員を外部の研修会に派遣するなど、事業所としての今後の取り組みを明確化されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時必要な応急処置、対応をミーティング等で確認し合っている。事故発生時は管理者、ユニットリーダーと連絡を取り、指示のもと適切に対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	他法人が運営するグループホームに隣接しており、合同で防災訓練を行ったり、日頃からお互いに協力し合える体制をとっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間災害を想定し、隣接事業所と合同で、また一部の利用者也参加して訓練を行っている。 ・非常用の缶詰、水を一日分備蓄している。 ・スプリンクラーの設置を検討中である 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の消防団の協力による防災訓練について、運営推進会議で検討されることを期待します。

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねることが無いように、会議等で職員間の対応を確認し合っている。不適切な言動があった場合は管理者、ユニットリーダーが個別に指導している。	・職員は利用者の人格を尊重し、気持良く挨拶すること、やさしく話しかけることを心がけている。また、注意したり、不快に感じることはしないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決めていただけるような声掛け、対応を行なっている。本人の意向が確認しにくい場合は、行動や表情の変化を察知し、本人が納得され行動しているかどうか考察し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・レクリエーションの時間は決まっているが、本人の状態に合わせて参加して頂いたり、他の方法を考え、無理に働きかけていない。日程や時間を変更し、本人のペースで1日を過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師免許をもつ職員がおり、家族や利用者の好みを踏まえ対応している。ボランティアによるハンドマッサージや化粧も行なっている。衣替えの時期には本人の好みの物を家族に入れ替えをお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳・下膳は個々の能力に応じて、行なって頂いている。献立は配食会社で決められているが、変更することもできる。誕生日会や行事の際は、利用者の好みを踏まえ、職員が献立を考え提供する場合もある。	・近くのファミリーレストランで外食を楽しんだり、好みのおやつを作ったりしている。 ・誕生会ではお寿司のほか、利用者の好みを反映した調理で食事に変化をつけている。	

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎食記録をしている。献立は配食会社の栄養士によりカロリー計算、栄養バランスは十分に考えられている。また一人ひとりの嗜好や状態に合わせて、職員が工夫して調理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを励行し、必要に応じて口腔ケアの介助をしている。就寝前には入れ歯洗浄剤を使用し清潔を維持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し本人の排泄パターンを把握して、日中は尿意・便意がはっきりしない利用者にも必ずトイレに誘導し、便座に座ってもらっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリパンツの利用者も日中は排泄チェックシートを活用してトイレに誘導し、排泄の自立を支援している。 ・排泄の時、人目に触れないよう配慮している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトなどの乳製品や水分補給時にオリゴ糖入りのゼリーを提供している。また適度な運動が出来るように、スタッフが作成したビデオ体操を行ったり、散歩の機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は基本的に決まっているが、本人の状態や希望により入浴日や時間を変更している。その日によって入浴剤を変えるなどして入浴を楽しめるように配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間に3回、午後の時間に入浴している。 ・入浴を好まない利用者には、タイミングを見て誘導している。 ・脱衣場がベランダに通じており、湿気がこもらない構造になっている。 	

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や状態によって、就寝・起床時間を合わせている。リビングのソファで休んだり、昼寝が出来るようにしている。また眠剤は極力使用しないように対応方法を検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が変わった場合は服薬後の状態を観察している。また訪問診療を受けている利用者の場合は、薬剤師より薬の目的、用法、服薬時の注意点について説明を受け、職員側からは服用時の状態を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活習慣を配慮して、調理や掃除などの家事を役割分担し、行なっていただいたり、以前趣味で行っていた絵画、裁縫、園芸などが行なえるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くの公園などに散歩に出かけたり、庭先やベランダで日光浴やレクリエーションなどを行なうようにしている。また個別の外出は家族対応で協力して頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・車いすの利用者にも外出を促し、困難な時はベランダで外気浴を行っている。 ・ホームセンターへの買物や外食に出かけ、地域の人と触れ合い、戸外での楽しみを支援している。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日用品、食材、おやつ等の買物で利用者と一緒近くのスーパーまで行き、支払いをしていただいたり、納涼祭などの行事の際に金券や小銭を持っていただき模擬店の支払いをしていただいている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも手紙、電話のやり取りが出来るように対応している。本人が行なうことが困難な場合は、必要に応じて職員が補助をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂には利用者と一緒に作った作品を飾ったり、行事などの写真の掲示や季節に応じた装飾をしている。また共用部分の照明や室温は状況により調整している。	<ul style="list-style-type: none"> ・共同空間は掃除が行き届き清潔で、床暖房設備が乾燥を防ぎ快適な生活空間を作っている。 ・ソファでくつろぎ、自由にベランダに出て外気に触れることができる。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係を配慮しながら、食堂の席を決めたり、ソファでくつろいだりして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が長年利用されてきた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、家族の写真など本人の愛着のある物を置いたり、心地よく過ごせるように配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には持ち込み品を十分収納できるクローゼットを備え、利用者が心地よい空間を保持できるよう配慮している。 ・利用者は、好みのカーテンを掛け、馴染みの家具や寝具を持ち込んでいる。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、フロー内、トイレ、浴室等利用者が行動する要所に手摺を設置し、利用者が出来るだけ自力で移動を可能とする工夫をしている。		

ライフハウス平戸

事業所名	ライフハウス平戸
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族や地域の方々との関係を大切に開放的なグループホーム作り」を理念の一つに挙げ、職員の目に付く場所に掲示し、会議等を通じて周知している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は毎日のように散歩や買物に外出し、近隣の人とのふれあいがもてるようにしている。また事業所で行なう納涼祭等の行事の案内をしたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の福祉体験学習を毎年受け入れている。また今年度より区内にある介護福祉士専門学校の実習受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動状況を報告し、各委員より意見をもらっている。改善できる内容は、職員会議等で検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	戸塚区グループホーム連絡会に参加し、情報交換をしている。また地域包括支援センターの担当者には毎月訪問していただき、何かあれば相談している。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、ユニットリーダーが中心となり、身体拘束の対象となるような行為がないように指導している。また身体拘束に結びつくような対応が無いようにユニット会議で話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がお互い気を付け、虐待に当たる行為がないように事業所全体で注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を活用していた利用者がいたが現在はいない。必要があれば家族等の相談に乗っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき細かい説明を心がけている。また改定時にも理解して頂けるように丁寧に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの要望等は、出来る限り意見が反映されるようにその都度、職員間で検討するようにしている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は各事業所の管理者を招集した会議や法人内グループホーム連絡会を開催し意見や提案を聞いている。また管理者はユニット会議の中で職員の意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部職員が定期的に事業所を訪問し、職員個々の就業状況の把握に努めており、職場環境の改善、整備をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内事業所の新任職員を対象にオリエンテーション、新人研修を行なっている。外部に研修への参加は少ないが、管理者、ユニットリーダーが中心となり、現場で指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・横浜市グループホーム連絡会や戸塚区グループホーム連絡会にて勉強会、情報交換をしている。 ・隣接するグループホームとは、防災訓練、行事などで日常的に情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の見学時や自宅訪問時に本人の話を良く聞き、実際の活動中の様子を見学していただいたり、見学が難しい利用者にはパンフレット等で事業所の説明をしている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談、見学、自宅訪問等、段階を踏んで話を聞く機会を設けている。必要に応じてサービス提供者からも話を聞いたり、情報収集を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで出来る事、出来ない事を説明し、本人と家族にとって一番良いと思われる支援を共に考え、アドバイスするように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・庭で野菜の栽培や園芸の作業や調理を利用者と共に行なっている。肥料のやり方、栽培方法や調理方法を経験のある利用者から教えて頂くことがある。 ・掃除は、各場所の担当を決め利用者に手伝って頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・定期的な面会をお願いし、本人との関係を持っていただいている。 ・行事等の参加や通院の同行、外出、外泊で協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の出身地や生い立ちの思い出を大切にし、本人との会話の時間を大切にしている。また家族には知人の面会や外出をお願いしている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、食堂の席や作業グループを決めたりしている。自立度の高い利用者が他利用者のお世話をしたりすることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後、自宅へ戻られた利用者は少ないが、電話で連絡を取ったりしている。 ・長期入院のため退所した利用者の病院に面会したりして状況の確認をし、再入所の可能性があれば、家族と相談している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室担当者が担当の利用者と信頼関係を築き、日々の会話や支援を通して、利用者一人ひとりの希望や意向を把握するように努めている。本人の確認が困難な場合は、家族の意見を聞き検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や在宅時の担当ケアマネジャーから情報を収集し、アセスメントシートに記載し本人の状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の生活の中で職員が気付いた事は各帳票類に記録し、職員間で情報を共有できるようにしている。また毎日の申し送りや毎月の会議の中で、利用者一人ひとりの状態を把握できるように話し合っている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・入居前に本人が趣味で行っていたことや生活習慣を本人、家族から聞き取り、介護計画に反映している。 ・計画の見直しが必要な場合は、毎月のユニット会議で利用者の課題を検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況報告書に日中、夜間の状態を分け記載をしている。利用者の様子、職員の対応状況を記録し、全職員が把握できるようなかたちになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や利用者の状況に応じて、法人内の事業所間で検討が必要な事があれば総合的に支援できる体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にウクレレ、ハーモニカ、ハンドマッサージ等のボランティアに来てもらったり、避難訓練等消防署と協力して支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、利用者の希望により、入居前からのかかりつけ医に受診している利用者が半数位いる。また通院に負担がある利用者においては2週間に1回の訪問診療や月1回の往診を受け、主治医と連携をとっている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、半数の利用者は2週間に1回、訪問診療を受けており、看護師と日常面での健康管理について相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療相談員との定期的な連絡や病院での面会の際に医師や看護師等から本人の状態を確認し、家族と共に退院に向けた話し合いの場を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や利用者の意向を踏まえ、重度化した場合の対応について職員間での話し合い、方向性を考えている。重度化し対応困難な場合は、法人内の他サービスで支援が可能であるか、随時検討できる体制を整えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時必要な応急処置、対応をミーティング等で確認し合っている。事故発生時は管理者、ユニットリーダーと連絡を取り、指示のもと適切に対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	他法人が運営するグループホームに隣接しており、合同で防災訓練を行ったり、日頃からお互いに協力し合える体制をとっている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーを損ねることが無いように、会議等で職員間の対応を確認し合っている。不適切な言動があった場合は管理者、ユニットリーダーが個別に指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決めていただけるような声掛け、対応を行なっている。本人の意向が確認しにくい場合は、行動や表情の変化を察知し、本人が納得され行動しているかどうか考察し、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴・レクリエーションの時間は決まっているが、本人の状態に合わせて参加して頂いたり、他の方法を考え、無理に働きかけていない。日程や時間を変更し、本人のペースで1日を過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪は訪問美容サービスを利用し、本人の好みを踏まえ対応している。また近隣の理髪店へ行ったり、ボランティアによるハンドマッサージや化粧も行なっている。衣類の補充は家族に本人の好みの物を用意してもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳・下膳は個々の能力に応じて、行なって頂いている。献立は配食会社で決められているが、変更することもできる。誕生日会や行事の際は、利用者の好みを踏まえ、職員が献立を考え提供する場合もある。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎食記録をしている。献立は配食会社の栄養士によりカロリー計算、栄養バランスは十分に考えられている。また一人ひとりの嗜好や状態に合わせて、職員が工夫して調理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを励行し、必要に応じて口腔ケアの介助をしている。就寝前には入れ歯洗浄剤を使用し清潔を維持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し本人の排泄パターンを把握して、日中は尿意・便意がはっきりしない利用者にも必ずトイレに誘導し、便座に座ってもらっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトなどの乳製品や水分補給時にオリゴ糖入りのゼリーを提供している。また適度な運動が出来るように、スタッフが作成したビデオ体操を行ったり、散歩の機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は基本的に決まっているが、本人の状態や希望により入浴日や時間を変更している。その日によって入浴剤を変えるなどして入浴を楽しめるように配慮している。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣や状態によって、就寝・起床時間を合わせている。リビングのソファで休んだり、昼寝が出来るようにしている。また眠剤は極力使用しないように対応方法を検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が変わった場合は服薬後の状態を観察している。また訪問診療を受けている利用者の場合は、薬剤師より薬の目的、用法、服薬時の注意点について説明を受け、職員側からは服用時の状態を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活習慣を配慮して、調理や掃除などの家事を役割分担し、行なっていたり、以前趣味で行なっていた絵画、裁縫、園芸などが行なえるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くの公園などに散歩に出かけたり、庭先やベランダで日光浴やレクリエーションなどを行なうようにしている。また個別の外出は家族対応で協力して頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日用品、食材、おやつ等の買物で利用者と一緒近くのスーパーまで行き、支払いをしていただいたり、納涼祭などの行事の際に金券や小銭を持っていただき模擬店の支払いをしていただいている。		

ライフハウス平戸

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればいつでも手紙、電話のやり取りが出来るように対応している。本人が行なうことが困難な場合は、必要に応じて職員が補助をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂には利用者と一緒に作った作品を飾ったり、行事などの写真の掲示や季節に応じた装飾をしている。また共用部分の照明や室温は状況により調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係を配慮しながら、食堂の席を決めたり、ソファでくつろいだりして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が長年利用されてきた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、家族の写真など本人の愛着のある物を置いたり、心地よく過ごせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、フロー内、トイレ、浴室等利用者が行動する要所に手摺を設置し、利用者が出来るだけ自力で移動を可能とする工夫をしている。		

